遊煩悩林

順正寺寺報

2017年
5月号

永代読経法要

五月七日（日）
午後一時より
読経（衆僧供養）
法話
おとき

風薫る五月、貴家皆様にはご健勝にてお過ごしの事と存じます。

さて、例年のとおり「永代読経法要」を厳修いたします。

「永代経」とは、「私」が子供や孫そして子孫の幸福を願うと同じように「私」に幸せで在って欲しいと願って下さっている仏となられたご先祖に感謝の思いを込めて僧俗共に勤める大切な行事です

常日頃、生活の多忙さにかまけて、ついつい忘れているご先祖のお蔭に気づき、仏恩報謝のひと時を共にすごしましょう。

当山順正寺では永代読経志を左記に定め、順正寺永代読経過去帳に記載し永代供養致しております。ご希望の方は住職までお申し出下さい。

＊特別永代読経（毎月ご命日読経、祥月命日特別読経）
志納金参拾萬円以上

＊永代読経（毎月ご命日読経）
志納金壱拾五萬円

4月、5月に旬の野菜は春や初夏を感じさせてくれる。でもそれがおいしいと思えたのは大人になってからだ。タラの芽、菜の花、ふきのとう。ちょっとほろ苦い。子供の頃はそのちょっとした苦みが嫌だった。子供は経験が少ない分、より本能が強く働くのだろう、苦いものは「毒」、酸味は「腐」辛味は「痛」、動物が生きていくうえで大事な感覚だ。大人は経験上それを口にしても大丈夫だと知り、また人間は刺激を求める業を持つ故、経験が増えればより刺激の強いものを食べたがるのだろう。そしてその刺激に慣れてしまう。

先日、メロディアスライブラリイというラジオ番組で入学式のシーズンということもあり「大きな1年生と小さな2年生」（古田足日著）という作品を取り上げていた。その中に（車の運転をしながら聴いていたので正確ではありません）小さな2年生のあきよが「この道は初めての道だから楽しい」と言う、すると大きな1年生のまさやが「こどもにとってはどんな道もはじめてなんだ」と言う場面がある。何につけても初めての事を経験する前は不安やら期待やらドキドキするような事があり、面白く、またすごく記憶にも残る。しかし、大人になるとはそういったことが度重なり当たり前のように感じ忘れてしまい、またもっと強い刺激が欲しくなって行くことかもしれない。でも、その在り方にちょっと疑問を持ってみませんか。刺激を求めるなとか美味しいものを食べるなとか言いません。それはすごく大事なことです。でも常に先のことを求め、今受けているものを当たり前としてしか感じなくなり、求めつづけることがさも正しいことだと肯定し続けるところに「幸福」はあるのだろうか。

今、あえて私たちが明治維新政府によって作られてこの方僅か150年の間に「富国強兵」の為に植えつけられ持ち続けて来た「日本人」像、また経済至上主義という中で生まれた「拝金主義的幸福感」にちょっと疑問を持ってみましょう。「富国」の名のもとに中国をはじめとして多くのアジア諸国を武力で侵略し、多くの一般の人々を殺し、挙句このまま

ではこの「国」のエネルギーが枯渇し経済が潰れると「神国日本」の名のもとにアメリカに開戦しました。それによって７０年前あなたは、あなたの親や祖父母は幸せになりましたか。他国に侵略し他国と武力をもって争った結果は「焦土」でありリアルな地獄の出現だったのではないでしょうか。その時私たちは何を求めていたのでしょうか。その時代に生まれてなかったとか昔話という事ではありません。

プリンストン大学の名誉教授でノーベル経済学賞受賞者のダニエル　カーネマンさんは「フォーカシング　イリュージョン」という事を人間の愚かな特性として述べてます。フォーカシングは焦点を合わせる、イリュージョンは幻想。間違ったところに焦点を当ててしまう事です。

「人は所得などの特定の価値を得ることが必ずしも幸福に直結しないにもかかわらず、それらを過大評価してしまう傾向がある」つまり今ほぼ世界中の人が「幸福」だと目指している事（お金が沢山あれば、物が沢山持てれば）は見当違いであると言っているのです。

慶応大学大学院教授の前野隆司さんは「幸福は目指すべきものではなく、メカニズムを理解すべきものなのです。メカニズムさえ理解すれば、目標はわかりやすくなり、人間の脳は、思わず幸福を目指してしまいます。意識して目指さなくても。」

ここのところ毎回のように書きますが「縁によって生まれ、縁によって生き、縁によって死に、縁によって極楽浄土に仏として生まれる」のです。今日、只今、ここに在る私がどのような縁によって成っているのか、正に私を成り立たせているメカニズムです。永代と言われる長い時間を掛けてこの私を今生に生み出したご縁、今この私を生かしめているご縁を考えてみましょう。そして何があなたにとっての「幸福」か考えてください。あなたが考えるのです。「幸福」は自分以外の誰かがしてくれることではありません。

今、間違った「幸福」論に誘導され、私たちは、ふたたび地獄を出現させる直前にいます。

永代経（「経」は縦の線、不断の繋がり。その中にいる私）

何をもって、私は私であるという確証を持てるのか。

名前？「江口智流」という名前、「釋智流」という法名を持っている。名前が違っていたら、法名が違っていたら、私は私でなくなるのか。名前が私なら、どちらが本当のところの私なのか。そんなわけはない。名前が変わろうが、苗字が変わろうが、心持に多少の変化はあるかもしれないが、私の私たる根っこのところは変わらないと思う。その根っこのところがわからないのだが。

仕事？仕事が私であるとしたら、仕事が変わると私は変わるのか？仕事がなくなったら私の存在そのものもなくなるのか。そんなわけはない。昔、役者をやっていた。寺に戻った。一時事務員もやっていた。また、寺に戻った。ずっと私だった。有り難いことに、本当に働く場所を無くしたことはない、が、例えなくなったとしても、勝手に自分の中で、そして社会的に「存在価値がない」と言われようが思われようが、私は私としてある。仕事が変わろうが、無くなろうが、私は私であり、私の根っこのところは変わらないし、私がなくなることもない。

同じように、対家族、対友人、対社会に投影しながら自分を見いだそうと、自分の存在のアリバイ、証明をしようとしている。でも、家族が、友人が、社会との接点がなくなるとアリバイがなくなり、まるで自分までなくなってしまったような妄想に陥る。家族が、友人が、社会が私なのではない。いよいよ私がわからない。

この顔？肉体？内臓？人の肉体の細胞は何年かですべて入れ替わるとも聞く。また、実は一部の細胞は一生入れ替わりがないとも聞いた。じゃ、その入れ替わらん細胞が私なのか？ということは、その細胞をある日無くしてしまった私は昨日の私と別人になるのだろうか。そんなわけでもない。全ての細胞が入れ替わったからとしても、私は私だろう。

心情？思想？信念？いやいやこれらはしょっちゅう変る。これほどあやふやなものはない。これほど私の私たる「所以」にしたら頼りにならないものはない。変わって無いようで、社会の変化や、老化や、都合でしょっちゅう変わってしまう。

では、私は誰なのだろう。私が私だと誰が証明してくれるのだろう。私がいま私としてここに在るというアリバイは誰が立証してくれるのか。考えるとおかしくなりそうだ。いや、こんなことを考えている時点で、私は私を証明するすべを持っていないという証拠だ。

社会的に言えば、否定はしてみたものの、やはり他人であり、仕事であり、家族だろう、私の証明は。ただ、それはあやふやな証明だ。いついかなる時であろうと、理屈理由ぬきに、自分でさえ存在に疑問を持った時でさえ、ぶれずに私を証明してくれるのが、南無阿弥陀仏、そして、あなたのご先祖。なぜなら、ずっと繋がっている中を、今私として生きているだけだから。点が繋がって線になるように、私という点は阿弥陀という線の一部だから。

副住職

長いいのちの歴史の中に
今　私が在ることに気づかされたら
生死のきれめが見えなくなりました

鈴木章子 著『癌告知のあとで
なんでもないことが、こんなにうれしい』（探究社）より

順正寺「照久会」（護寺会）入会のお願い

おかげさまで「照久会」発足より４年が過ぎました会員の皆様には寺門護持にご協力頂いております事深く感謝申し上げます。

さて、現在会員は２５０名をわずかに超えました。昔からお寺は三百軒のお檀家があればある程度維持できるといわれています。順正寺は前住職が開山で歴史も浅く檀家制度というものが無いためご縁のあった皆様に支えられて今日存続しております。

今後健全に運営していくためにまだまだ皆様のお力添えが必要とされます。

未だ照久会にご入会頂いておられない皆様には是非ともご入会いただけますようお願い申し上げます。

住職

＊会の詳細はパンフレット等ありますので住職、副住職に何なりとお尋ねください。

「永代経」は正式には「永代読経」と言います。そんなわけで今年から法要名を変えました。

で、読経はお経を読むことですが誰が読むのか、勿論、法要ですから私や副住職がお勤めいたします。でも皆さんも一緒に読むのです。いつも法要にいらした方には半ば強制的にお経の本をお渡しして読んで頂いています。お経はお釈迦様の教えが書かれています。声に出して読んだときその声を一番最初に耳にするのは声に出した私です。お経を読むとき私は教えを聴いているのです。亡き人の供養の為に読むのではなく、亡き人が仏となりあなたに仏法を聴いて欲しいと願い、その願いのもとに私たちは読経します。あなたが本堂で多くの人と共にお勤めするお経は永代に渡り伝えられ今あなたに成就しているのです。

住職からのお願い

今東京では火葬場が不足しています。皆さんご経験のとおり通夜葬儀の日程はお寺の都合より火葬場の都合が優先されてしまいます。その為ご法事の時間のお約束を頂いていても変更をお願いすることが有ります。葬儀をお勤めすることはそのお家の方にとって一生の一大事です。そこは相身互い、どうかご寛恕下さいますようお願い致します

定例行事

聞法会　毎月2日夜7時から　現在、鉛筆写経（親鸞和讃）とお話、座談会をやっています（8月はお休み）

歎異抄を読み聞く会「微妙音」　毎月5日午後2時

白色白光の会（婦人会）毎月第2木曜午後1時
お経（正信偈）の練習と法話と茶話会

「照久会」浄土真宗初めて講座　二月、四月、六月、十月、十二月の第2土曜午後2時より5時まで（参加費　2千円、照久会会員は千円）講師　聞成寺　佐竹貫裕師

仏像なぞり書き「仏像描くぞう」
第2水曜　夜7時半　月の最終日曜朝9時からやってます。
参加費三百円（初回のみ別途テキスト代千円）

照久山順正寺
練馬区石神井町
3の11の4
03・3996・2064